

## 稀観書展示会「フランス人による日本論の源流をたどって」

(7pからの続き)

昨年の稀観書展示会は日仏修好通商条約が結ばれてから150年になることを記念して「日仏交流150周年記念稀観書展示会 フランス人による日本論の源流をたどって」というテーマで行われました。

今回の展示会は、第1部では「ヨーロッパに流布していた日本関係書物のフランス語版と来日経験がなかったフランス人による書物」として、最初はマニュスクリプト(写本)の形で流布していたマルコ・ポーロの『東方見聞録』(1556年)のフランス語版や鎖国時代の日本から持ち出されフランス語に翻訳された林子平の『三国通覧図説』(1832年)などが並べられました。また、第2部では「日仏修好通商条約の締結後に刊行されたフランス人による書物」として、レオン・パジェスの『日仏辞書』(1868年)や日本の近代法の父と呼ばれるギュスターヴ・エミール・ボアソナードの『大日本帝国刑法修正草案』(1886年)などが展示されました。

この展示会にはフィリップ・フォール駐日フランス大使からお祝いのメッセージが届き、学生・教職員の皆さんの他にも学外から多くの方々が訪れ、展示された書物を熱心に見入っていました。

